



湘北短期大学図書館

としょかんNEWS

vol.128

2018.2.20 発行

月日はあっという間に流れ、まもなく年度末ですね。この一年間、図書館は「ミンナノミカタ」になれたでしょうか？ 2017年度の総まとめとして、図書館では、1月に“図書館の授賞式”と称して、図書館と本にまつわる賞を発表、授与いたしました。

特集：図書館の授賞式 2017

図書館には、自分が本とどれくらいの関わりをもてたのか、励みや目安となる「読書ノート大賞」と「多読賞」の二つの賞があります。今年度は、2018年1月17日（水）の「学長と祝う誕生会」の中で、学長より受賞者（当日の出席者18名）へ賞状授与が行われました。



宮下学長より、賞状の授与 2018.1.17

読書ノート大賞 2017

図書館では、毎年、4月～12月にお寄せいただいた読書ノートの中から優秀作品を決め、発表しています。今年度は、秋の読書ノートキャンペーンも盛況で、参加学生53名、提出された読書ノートは868冊分に上りました。図書館と図書館委員の職員が審査し、文学・実用書・写真・絵本の4部門から7名を選出し、優秀賞が贈られました。（副賞は、湘北ポイント200pt付与）以下、受賞した読書ノートをご紹介します。来年度も、読書ノート（1冊分で湘北ポイント20pt付与）をお待ちしています。

『檸檬』 梶井基次郎著、げみ絵
★★★ 立東舎 / 2017 【913.6/オ】

絵本のように挿絵が入った文学作品シリーズ。元々『檸檬』が好きで挿絵を描いているげみ氏に惹かれて挿絵を描いている。小説を読んでいるというよりは画集を見ている気持ちになる。普段、文学作品を読まない人にこそオススメしたいシリーズ。

【文学部門 16B】

『死を招いた保育』 猪熊弘子著
★★★ ひとなる書房 / 2011 【376.13/イ】

保育の道へ行く人なら読んでほしい一冊です。ある公立の園で起きた死亡事故の話だが、これは起こるべくして起こっているもので、遺族の悔しさややるせなさを考えるととても苦しくなります。また、他人事ではなく、自分だったらどうするか？と考えながら読みました。

【実用書部門 17P】

『ねこ歩き』 岩合光昭著
★★★ クレヴィス / 2013 【748/イ】

様々な国、様々な季節を過ごしているネコの姿を見て、癒されるのはもちろん、力強く生き生きと生きている様子に勇気づけられました。海外のネコと国内のネコは少し性格が違いそうな感じが見受けられました。

【写真集部門 16L】

『レインツリーの国』 有川浩著
★★★ 新潮社 / 2006 【913.6/A】

同作者の作品「図書館戦争」に登場している本を実際に書いたという本。難聴である女性と主人公の男性の共通の趣味で意気投合していく。私自身、難聴やそれによる手話での会話に興味があり、耳が聞こえないとこういう風に感じ、考えるんだと知ることができ、我々と一緒だと改めて思った。

【文学部門 17B】

『世界の朝時間』 朝時間 . jp 著
★★★ 河出書房 / 2008 【290.8/A】

世界の色々な国の朝の風景の写真が載っていて、その写真を見ると何かエネルギーが湧くような感じがして読んだら気持ちがいっぱいしたように思いました。この本はちょっと疲れているときなどに読むと落ち着いて頑張ろうという気持ちにさせてくれると思います。朝の風景の写真のみだけでもエネルギーが湧いてくるので、朝という時間がとても大事だということを学びました。これからは充実した朝の時間を過ごしたいと思いました。

【実用書部門 16L】

『人間椅子・屋根裏の散歩者』 江戸川乱歩著
★★★ リブレ出版 / 2015 【913.6/E/2】

江戸川乱歩作品に一番最初に触れるならこれがオススメです。初級編という感じで真骨頂のエログロ要素も控えめで純粋なミステリー作品としても楽しめます。人間椅子の最後の判断を読者にゆだねるしっとりとした後味の悪さも面白いです。

【文学部門 16B】

『おふろだいすき』 松岡享子作、林明子絵
★★★ 福音館書店 / 1982 【絵本/お】

イラストがふわふわしていてかわいく、本当におふろの中のようなぼやけ具合です。おふろ嫌いな子どもに読み聞かせをしたいと思います。おふろにたくさんの動物がいたら、こんなに楽しいんだと思いました。

【絵本部門 16P】



2017年度、図書館でたくさん本を借りた人をランキング形式で発表し、多読賞を授与しました。多読賞を受賞された方には、副賞として湘北ポイント付与と図書1冊、視聴覚資料1点をリクエストする権利が付与されました。この春にはリクエストされた本の展示コーナーを設置します。お楽しみに！来年度も幅広く図書館をご活用ください。

総合ビジネス・情報学科1年	
1位	A・Aさん 39冊
2位	E・Sさん 35冊
3位	K・Oさん 33冊

生活プロデュース学科1年	
1位	M・Hさん 61冊
2位	M・Tさん 41冊
3位	A・Nさん 35冊

保育学科1年	
1位	S・Iさん 75冊
2位	R・Sさん 74冊
3位	A・Tさん 54冊

教員	
1位	Y・T先生 247冊
2位	A・T先生 156冊
3位	A・S先生 147冊

総合ビジネス・情報学科2年	
1位	S・Wさん 42冊
2位	H・Hさん 26冊
3位	M・Kさん 22冊

生活プロデュース学科2年	
1位	M・Hさん 62冊
2位	Y・Mさん 55冊
3位	M・Mさん 34冊

保育学科2年	
1位	Y・Fさん 72冊
2位	T・Sさん 57冊
3位	A・Mさん 53冊

職員	
1位	H・Yさん 221冊
2位	M・Iさん 82冊
3位	Y・Kさん 74冊

第27弾 学生選書ツアー実施！



有隣堂厚木店前にて、集合写真 2018.2.1



有隣堂の店内で選書中の様子



2018年2月1日(木)、有隣堂厚木店にて、今年度2回目の第27弾、学生選書ツアーを実施しました。参加学生8名、うち5名が2年生でした。学生時代にしか味わえないこの選書ツアーもいよいよ最後のチャンス！思う存分、オススメの本を選んでいただきました。(参加者には湘北ポイント100pt付与)

連載

Relay Essay No.44

賃貸併用住宅と私

生活プロデュース学科 大橋 寿美子

最近話題の実話漫画エッセイ、矢部太郎さん(芸人さん)の「大家さんと僕」を紹介いたします。

エッセイに出てくる「大家さんと僕」が暮らしている住まいは「賃貸併用住宅」と云います。建物の持ち主である大家さんが、賃貸部に住む入居者と同じ建物に暮らす住まいです。実はこの住まいは、私が住宅メーカー在籍中に恩師との研究会で命名した、20年前から調査研究している住まいです。今では各社が売り出し、都市部では2世帯住宅か賃貸併用住宅にするか、という住選択の一つにあがるほど知られてきました。賃貸併用住宅の魅力は、①賃貸部からの収益が建設費を補てんすることで住み慣れた愛着ある地域に住み続けることができること ②居住歴の長いオーナーが地域に馴染みのない入居者と近隣住民をつなぎ、コミュニティと街並みを持続できること、です。つまり経済的に大きなメリットがある上に、人間関係を生み街なみ維持にも良い住まいと云えます。

「大家さんと僕」では、新宿の賃貸併用住宅での、後者の“人間関係を生む”様子が魅力的に描かれています。

大家さんとひとり暮らしの入居者の僕との日常の中での交流に、クスリと笑ってほのほのとした気持ちを抱かせます。調査でも、大家さんは入居者に会えば声をかけたり時々お土産を渡したりと、親代わりになった気持ちで接している人が多くみられました。一方入居者も特に女性は、大家さんが同じ建物にいてセキュリティの点からも安心感を持って暮らしていました。この本では、男性の矢部さん「僕」と、一人暮らしの上品な高齢女性で少々毒舌な「大家さん」との、絶妙な距離を持ちながらお互いに気にかけて、徐々に心の拠りどころになっていく様子が描かれています。近頃、大家さんは、その話術でテレビ出演するまでになっていて人気者になっているようです。この本を通じて、賃貸併用住宅に住んでみたい、建ててみたい、と思う人がさらに増えてくれると良いな、と思っています。そしてこんな魅力的なお婆さんになりたいものです。

※図書館で貸出できます/マンガ



「大家さんと僕」矢部太郎著 新潮社/2017.10